

平成17年度病虫害発生予察 予報第3号

平成17年6月15日
長崎県病虫害防除所長

平成17年度病虫害発生予察 予報第3号

【気象（平成17年6月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。
週別の気温は1週目は高く、2週目は平年並、3～4週目は平年並でしょう。

| 要素 | 要素別確率 | | | 単位(%) |
|------|-------------|-----|------------|-------|
| | 低い (少ない) | 平年並 | 高い (多い) | |
| 気温 | 20 | 40 | 40 | |
| 降水量 | 30 | 40 | 30 | |
| 日照時間 | 30 | 40 | 30 | |

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

| 農作物名 | 病虫害名 | 発生程度 | |
|--------------|---|-------------------------------------|---------------------------------------|
| | | 現況 | 予想 |
| 早期水稲 | いもち病(葉いもち) 紋枯病 | やや少 並 | やや少 並 |
| 水稲共通 | ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ | 並 並 やや多 やや少 並 並 並 | 並 やや多 やや多 やや少 並 並 並 |
| いちご (育苗床) | うどんこ病 炭疽病(防除情報第6号) ハダニ類 | 少 並 並 | 少 並 並 |
| かんきつ | かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ | やや多 やや少 並 やや多 やや少 | やや多 やや少 やや多 やや多 やや少 |
| びわ | がんしゅ病 ナシヒメシンクイ | やや多 やや多 | やや多 やや多 |
| なし | 黒星病 ナシヒメシンクイ | やや少 やや多 | やや少 やや多 |
| ぶどう | べと病 | やや少 | やや少 |

| | | | |
|------|--|-----------------------------|---------------------------------|
| 果樹共通 | カメムシ類 | 少 | 少 |
| 茶 | 炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ | やや少 並 やや少 やや少 多 | やや少 やや多 やや少 やや少 やや多 |

【早期水稲】 () 内は平年値 [以下同じ]

1. いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査(42筆)の結果、発生を認めなかった(発生株率0.01%)。

(2) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) BLASTAM(葉いもち感染好適日判定モデル)によると葉いもちの感染好適日は6月14日までに認められていない。

3) 防除上注意すべき事項

圃場の見回りに努め、発生を認めたら早急に防除を行う。

2. 紋枯病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査(42筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(2) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生株率0.1%)。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤は止葉出葉期から出穂期にかけて株元に十分かかるよう丁寧に散布する。

【水稲共通】

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

1) 予報内容

発生程度 ヒメトビウンカ 並
縞葉枯病 やや多

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査(42筆)の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの1株当たり虫数は0.02頭(0.02頭)で発生圃場率は7.1%(11.0%)であった。

(2) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの1株当たり虫数は0.04頭(0.05頭)であった。

(3) 5月中下旬の雑草地及び小麦圃場でのヒメトビウンカ(第1世代)の生息密度は20回すくい取りで7.4頭(11.2頭)、縞葉枯病ウイルスの保毒率は3.9%(1.0%)であった(表)。

3) 防除上注意すべき事項

平成17年6月3日付け 病害虫発生予察 防除情報第5号参照

表 ヒメトビウンカ(第1世代)の生息密度と保毒率の推移

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 年 度 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 平年 | 17年 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|

| | | | | | | | |
|---------|------|-----|------|-----|-----|------|-----|
| 生息密度(頭) | 11.5 | 6.9 | 12.1 | 9.9 | 9.6 | 11.2 | 7.4 |
| 保毒率(%) | 0.8 | 0.6 | 1.0 | 0.9 | 2.0 | 1.0 | 3.9 |

注) 生息密度は捕虫網によるすくい取り(20回振り)の虫数
保毒率検定はラテックス凝集反応法による
平年値は平成7～16年の平均値(最高・最低値除く)

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ やや多
萎縮病 やや少

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査(42筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの1株当たり虫数は0.2頭(0.1頭)、発生圃場率は42.9%(43.1%)であった。
- (2) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの1株当たり虫数は2.4頭(1.2頭)であった。
- (3) 5月中下旬の雑草地でのツマグロヨコバイ(第1世代)の生息密度は20回すくい取りで8.4頭(8.8頭)、萎縮病ウイルスの保毒率は0%(0.2%)であった(表)。
- (4) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

今後、移植をおこなう圃場では箱処理剤を処理する。移植が終了した圃場でツマグロヨコバイに効果の低い箱処理剤を用いた圃場や箱処理剤を処理しなかった圃場では本虫の発生に注意する。

表 ツマグロヨコバイ(第1世代)の生息密度と保毒虫率の推移

| 年度 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 平年 | 17年 |
|---------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| 生息密度(頭) | 9.6 | 9.0 | 9.2 | 6.4 | 14.8 | 8.8 | 8.4 |
| 保毒率(%) | 0.2 | - | - | 0.2 | 0 | 0.2 | 0 |

注) 生息密度は捕虫網によるすくいと(20回振り)の虫数
保毒率検定はラテックス凝集反応法による
平年値は平成7～16年度の平均値(最高・最低値除く)

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

1) 予報内容

発生程度 セジロウンカ 並
トビイロウンカ 並

2) 予報の根拠

- (1) セジロウンカは5月1日にネットトラップ(諫早市)で初確認した。その後、5月2、4半旬、6月1半旬、6月3半旬に少飛来を認めた。
トビイロウンカの飛来は、6月14日現在で認めていない。
- (2) 6月上旬の巡回調査(42筆)の結果、早期水稲におけるセジロウンカの1株当たり虫数は0.07頭(0.1頭)で発生圃場率は19.0%(39.7%)であった。
- (3) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるセジロウンカの1株当たり虫数は0.08頭(0.5頭)であった。

4. コブノメイガ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査(42筆)の結果、早期水稲において食害株及び、成虫及び幼虫の発生を認めなかった(食害株率0%、10㎡当たり成虫数0.03頭)。
- (2) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)、蛍光灯採集箱等の調査の結果、食害株及び、幼虫及び成虫の発生を認めなかった(食害株率0.2%、10㎡当たり

成虫数0.03頭)。

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は4.1%(33.2%)、発生圃場率24%(83%)であった。

2. 炭疽病

平成17年6月15日付け、病虫害発生予察 防除情報第6号による。

3. ハダニ類

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は1.5%(2.1%)、発生圃場率は24%(17%)であった。

【かんきつ】

1. かいよう病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.5%(0.2%)、発生圃場率は26%(7%)であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病枝や葉を除去する。

(2) 強風による傷から感染しやすいので、今後の気象状況に注意し、台風や強風があった場合は、直後に薬剤を散布する。

2. 黒点病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.1%発生圃場率2%)。

3. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は13.2%(10.3%)、発生圃場率は56%(43%)であった。

(2) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場における黄色粘着板トラップ調査の結果、誘殺量は平年よりやや多かった。

- (2) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達してから防除を行う。
- (2) 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる発生ピーク

| 地区名 | 多良見 元船 | 長与 吉無田 | 西彼 大串 | 諫早 川内 | 大村 小路口 | 佐世保 早岐 | 国見 神代 | 北有馬 谷川 |
|------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 第3世代 | 7/4 | 7/3 | 7/8 | 7/1 | 7/5 | 7/5 | 6/30 | 6/30 |
| 第4世代 | 7/22 | 7/22 | 7/27 | 7/19 | 7/23 | 7/24 | 7/19 | 7/19 |

- 注1：発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。
- 注2：プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用。
- 注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

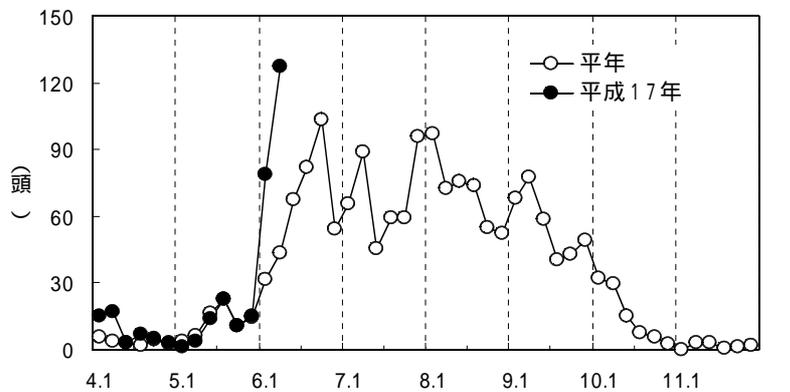


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早・黄色粘着トラップ) (月・半旬)
* 平年値は平成7～16年の平均

6. ヤノネカイガラムシ

- 1) 予報内容
発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠
県予察圃場での調査の結果、発生を認めていない(寄生葉率 0.0%)。
- 3) 防除上注意すべき事項
各地区の防除適期は、有機リン剤では下表の予測初発日の有機リン剤では40日後頃である。

表 ヤノネカイガラムシの第1世代1令幼虫予測初発日

| 地区名 | 多良見 | 長与 | 西彼 | 諫早 | 大村 | 佐世保 | 国見 | 北有馬 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 初発日 | 5/11 | 5/10 | 5/12 | 5/10 | 5/11 | 5/12 | 5/10 | 5/9 |

- 注1：各地区の選果場がある地点で算出している。
- 注2：ながさき農林業情報システム病害虫発生メッシュを利用して予測。

注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

【び わ】

1. がんしゅ病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は6.3%(1.2%)、発生圃場率は100%(43%)であった。

3) 防除上注意すべき事項

芽かきやせん定の傷から感染が拡大するので、作業終了後、薬剤散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

県予察圃場におけるフェロモントラップ調査の結果、誘殺量は平年よりやや多かった(図)。

3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

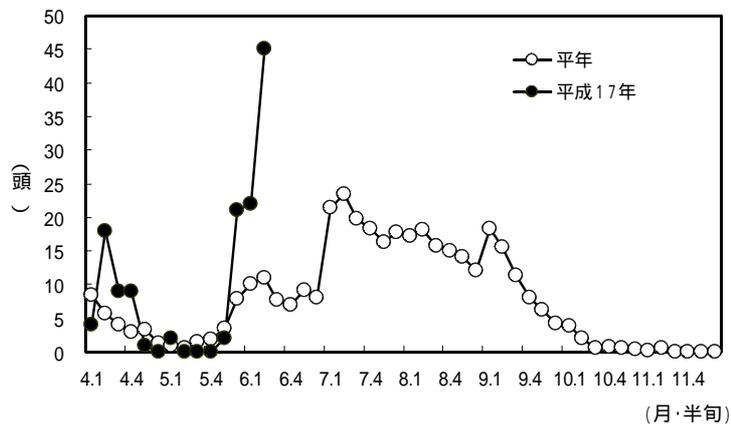


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早：フェロモントラップ)
* 平年値は平成7～16年の平均

【な し】

1. 黒星病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.1%(1.2%)、発生圃場率は42%(20%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

県予察圃場におけるフェロモントラップ調査の結果、誘殺量は平年よりやや多かった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 第2世代成虫の発生ピークは7月上旬頃であるが、その時期に薬剤散布すると防除効果が高い。

(2) 多発生時は残効が長い合成ピレスロイド剤が有効であるが、ハダニ類やカイガ

- ラムシ類の多発を引き起こすことがあるので注意する。
 (3) 本虫の薬剤抵抗性は確認されていないが、同一系統の薬剤の連用は避ける。

【ぶどう】

べと病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生は認められなかった(発病葉率0.1% 発生圃場率6%)。

【果樹共通】

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

フェロモントラップによる誘殺量(諫早市)は平年より少なかった。

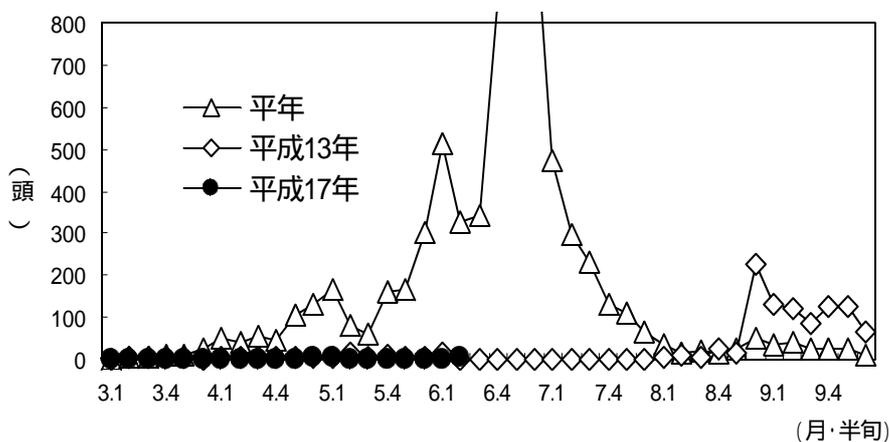


図 チャバネ・ツヤアカカメムシの誘殺状況(諫早:黄色コガネコロール)
 * 平年値は平成7~16年の平均

【茶】

1. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たりの病葉数は0.1枚(3.2枚)、発生圃場率は5%(39%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は12.4頭(15.2頭)、発生圃場率は85%(84%)であった。

(2) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多い圃場では、二番茶摘採後の防除に努める。
- (2) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

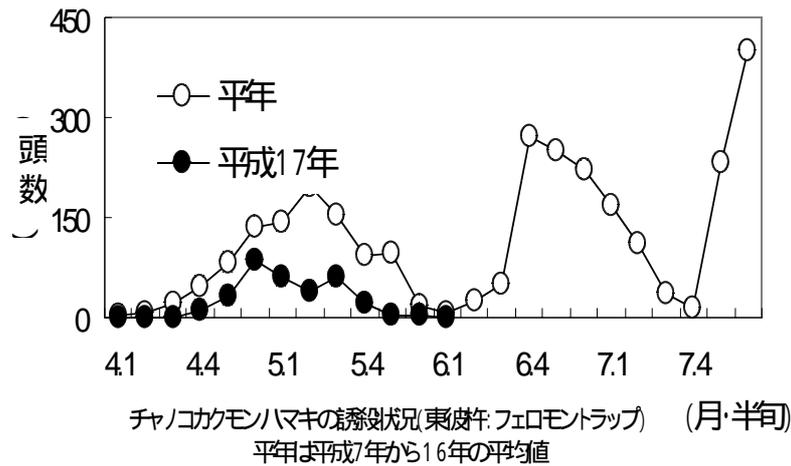
3. チャノコカクモンハマキ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.2枚 発生圃場率 13%)。
- (2) フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵町)はやや少なかった(図)。



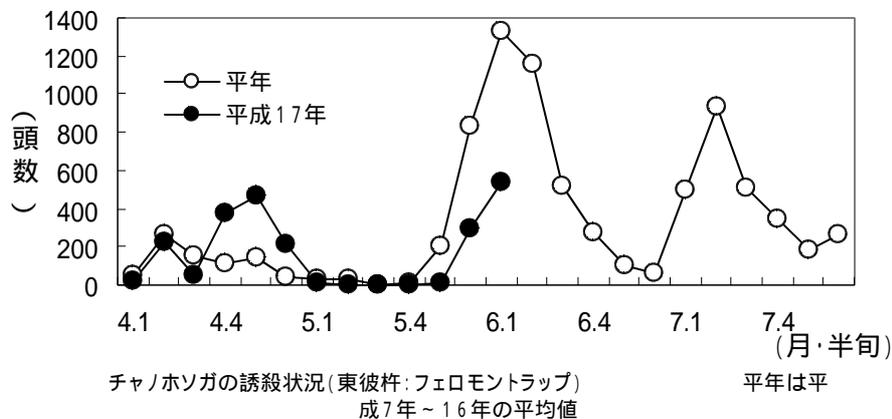
4. チャノホソガ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

- (1) 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.1枚 発生圃場率 6%)。
- (2) フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵町)はやや少なかった(図)。



5. カンザワハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

- 1) 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は19.8(2.5%)、発生圃場率は50%(28%)であった。
- 2) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みである。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - 1) 今後は降水量の増加や気温の上昇などのため発生量は減少すると予想されるので多くの圃場では防除を必要としない。
 - 2) 三番茶摘採予定の圃場は、二番茶摘採後のカンザワハダニの発生状況を確認して薬剤による防除を検討する。
 - 3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。